

交通安全だより第6号

I. 6月の安全運転管理について

1. 梅雨期の運転管理に取り組もう

～雨天走行の危険を周知する～

雨天時には、晴天時とは異なる危険に注意する必要があります。次のことに気を付けるようにしましょう。

① 視界が悪化する

雨天時は、雨滴等によって視界が悪化することで、歩行者等を見落とすおそれがあります。ワイパーの整備を怠らないようにするほか、昼間であってもヘッドライトを活用させましょう。また、フロントガラス等が曇り始めた際には、デフロスターを使ったり側面の窓をあけるといったことも指導しておきましょう。

② 制動距離が長くなる

路面が濡れると摩擦係数が低下し、制動距離は長くなります。晴天時と同じ間隔でブレーキを踏むと止まれないおそれがあることを意識して、車間距離を十分にとり、



～時間に余裕ある運転計画を立てる～

雨天時には、交通量が増える傾向があります。特に通勤・通学時間帯は、駅やその周辺の道路をはじめ、学校等の付近においても渋滞が発生するおそれがあります。万が一渋滞に巻き込まれても、焦ることなく運転できるように、普段よりも早めに出発することを実践するようにしましょう。

2. 雨天時、歩行者や自転車のそばを通る時は泥はねに注意

水たまりを走行するとき、泥や雨水を跳ね上げ、歩行者等に迷惑をかけていませんか？そのような行為は、道路交通法においても禁止されています。時速20キロでも歩行者の肩辺りまで水が跳ね上がることがあります。近くに歩行者や自転車があると、跳ね上がった水しぶきに驚いて、ふらついたり転倒するおそれもあります。そこで、雨の日はいつもよりもスピードを落として走行しましょう。また、歩行者や自転車の側方を通過するときは、側方間隔をしっかりとって、徐行することを徹底しましょう。

●雨の降り始めはとくに注意する

雨の降り始めは、摩擦係数が急激に低下するため、非常に滑りやすくなります。雨の降り始めは、スリップに特に注意して運転しましょう。



●「急」のつく操作は厳禁！

雨の日の運転で大切なことは、急ブレーキや急ハンドルといった「急」のつく操作をしないことです。そのため、スピードを控え、車間距離を通常よりも長くとりましょう。



●窓ガラスの曇りを防止する

窓ガラスが曇ると、歩行者等を見落とすおそれがあります。雨天時、車内が曇り始めた場合はエアコンやデフロスターを活用し、曇りを除去しましょう。



●夜間は一層慎重に

雨の日の夜間は、濡れた路面にヘッドライトの光が反射して、路面標示が見えにくくなります。普段以上にスピードを控え、より慎重な運転を心がけましょう。



II. 今月の交通ヒヤリハット

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	出社途中
どこで	踏切手前の十字路
何をしている時に	左から軽自動車 coming していることに気付いていたが、信号が青のうちに渡りたいと思いスピードを緩めず走行していた（軽自動車が止まってくれと思った）
どうなった	軽自動車の方が先に左折して踏切に入ったため接触しそうになり急ブレーキを踏んだ

Ⅲ. 今月の事故事例

◆事故の発生状況

令和〇年6月某日 午前8時20分頃 天候：雨

◆事故の当事者

A / 男性32歳 普通乗用車運転

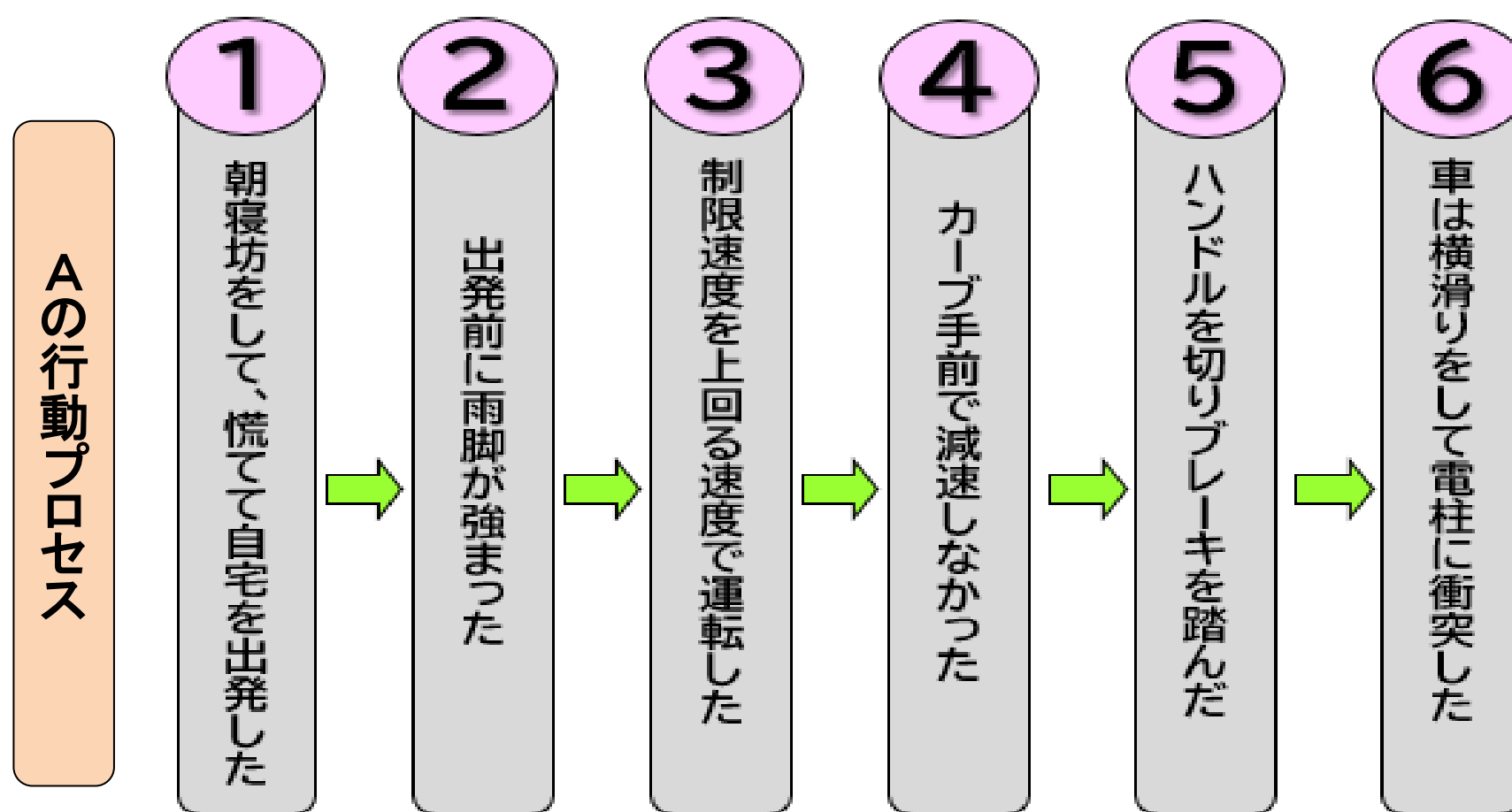
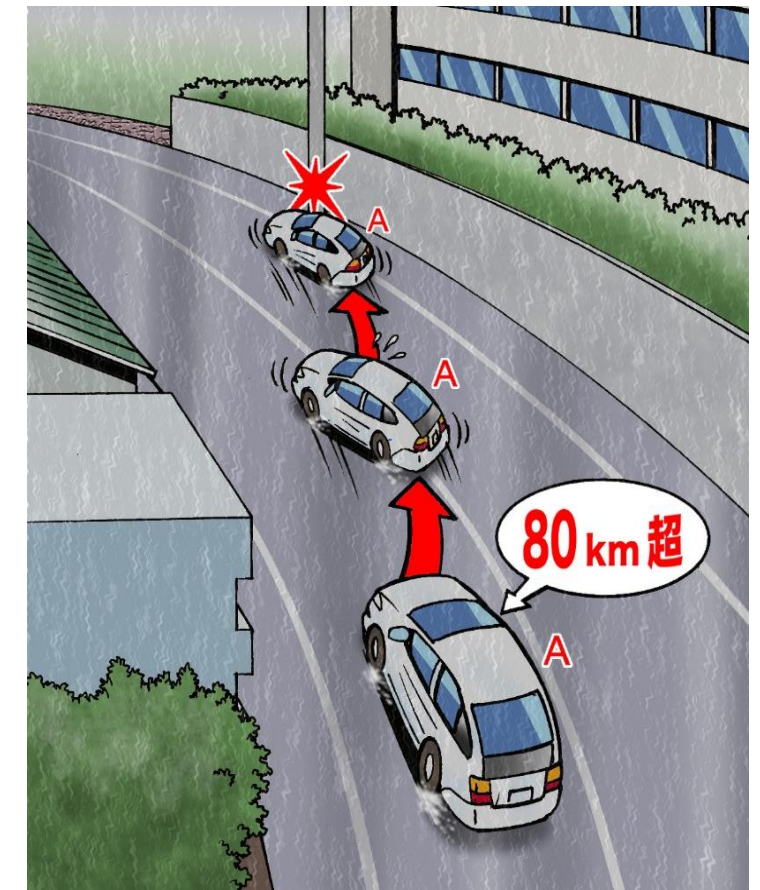
◆事故の発生概要

Aさんは、住宅販売会社に勤務する営業マンです。会社は隣の県にあり、毎日、マイカーで約40キロのルートで1時間かけて通勤しています。

Aさんは、事故を起こした前日の夜に、スマートフォンのゲームに夢中になり夜更かしをして朝寝坊をしてしまいました。その日は、朝一番に営業会議があるため朝食を摂らずいつもより20分ほど遅れてあわてて自宅を出発しました。

家を出るときに降り出した雨は途中から本降りとなったのですが、早く会社に着かなければいけないという気持ちが強く、制限速度40キロの道路を時速80キロを超えるスピードで運転していました。

しばらくして、事故現場である緩やかなカーブの手前に差し掛かりました。運転に自信があり、半年前にスポーツタイプの車に買い替えたAさんは、「この程度のカーブなら、スピードを落とさなくても大丈夫だ」と判断したのです。減速せずにカーブに入りハンドルを切ったところ後輪が滑り始めたので、あわててブレーキを踏み、さらに左にハンドルを切ったのですが車は右斜めに滑っていき、対向車線を越えて電柱に激突しました。



事故の原因と背後要因

- ①事故前夜にスマートフォンのゲームに夢中になり、朝寝坊をした。
- ②家を出る時間が遅くなり、会議に間に合うように制限速度を上回るスピードを出して運転した。
- ③自分の運転技術とマイカーに対する過信から、カーブの手前で減速せず進入した。
- ④雨天時におけるカーブでのスリップの危険性を理解していなかった。

類似事故を起こさないために運転者の対策は

- カーブ走行の基本を守った運転を実行する**
雨中のカーブでスピードを出しすぎると、中央線のはみ出し、路外逸脱などに結びつくおそれがある。カーブ手前での十分な減速を徹底すること。
- 「過信」することの危険を理解する**
車の運転や安全装備への過信は、スピード運転といった危険な運転行為につながる。「過信」＝「危険・事故」と心得て慎重運転に徹すること。

ワンポイントアドバイス 路面状態の違いによるカーブでの限界速度

雨天時に、カーブを曲がり切れずに中央線をはみ出して対向車と衝突したり、路外に逸脱する事故の大半はスピードの出し過ぎが原因である。

あるデータによると、半径60mのカーブを曲ることができる限界の速度は、乾燥路面では時速約70キロだが、湿潤路面では時速約55キロになる。つまり、いつもなら問題なく通過できる速度であっても、雨でぬれた路面では限界速度を超えるおそれがある。

雨の日は、晴れた日以上にカーブの手前で十分に減速しておく必要がある。

